



インドネシア

15 コメリン灌漑事業 (2)

A

B

C

D

スマトラ島の南スマトラ州およびランブン州の2州にまたがるコメリン地区において、二次水路および排水路建設等を行うことにより、米の増産を図り、もって農民の所得向上を通じた貧困削減に寄与する。

承諾額/実行額 65億4,400万円／53億3,500万円
 借款契約調印 1995年12月
 借款契約条件 金利2.5%、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイド
 貸付完了 2001年12月



外部評価者 岡田卓也（株）コーエイ総合研究所
 現地調査 2003年7月

評価結果

本事業（第2期）では、ほぼ計画通りに灌漑施設（二次水路、三次水路および排水路）が整備され、期間および事業費もほぼ計画通りであった。コメリン地区（第1期および第2期の灌漑面積46,557ha）の米生産量の実績値は37万1,060トン（新潟県では約60万トン）となり、計画値38万9,298トンの95%を達成している。また、評価時点での1haあたりの収穫量（単収）の実績値は3.8トン/ha（雨期）、4.2トン/ha（乾期）であり、計画値5.0トン/ha（雨期）、5.5トン/ha（乾期）の75～77%となった。本事業の約60%は新規開田であるため、水田の生産力が安定する数年後には単収が計画に達し、米の生産量は計画を超える水準まで増加する見込みである。受益者調査では、約70%の人から「就業機会が増加した」「所得が増加した」、および約40%の人から「子供が以前よりも高等な教育を受けられるようになった」等の声が

聞かれ、本事業が約3万戸の受益農家世帯の所得向上、雇用機会の創出等のインパクトをもたらしたことが確認された。灌漑施設の運営・管理は、一次水路が中央政府、二次水路が県政府、三次水路が水利組合によって行われており、各機関の技術、体制、財務面については問題はない。本事業の効果が計画通りに発現する数年後に、実施機関である公共事業省コメリン灌漑事務所が再度、効果発現状況の確認を行うことが望まれる。

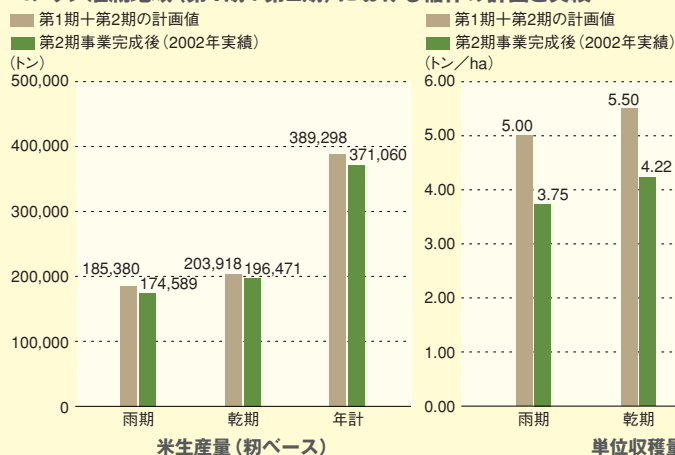
第三者意見

本事業による米の増産は、農民の生活水準を向上させているのみならず、米の輸入量を抑えることで、インドネシアの食糧安全保障や外貨節約に貢献している。

有識者 Mr. Syafruddin Karimi

フロリダ州立大学博士課程修了（経済学）。現在アンダラス大学経済学部教授。専門は水資源、貿易、コミュニティ開発、開発問題など。

コメリン灌漑地域（第1期＋第2期）における稲作の計画と実績



本事業により新規開拓された稲作地域の受益農民。本事業により土地を取得し、2002年後半から稲作を開始した。一作目の単収は1.2トン/ha、二作目（2003年の一作目）は3.0トン/ha。徐々に生産性が向上しており、現在三作目の成果に期待している。